

高いレベルの作品を一同に展示
枕崎から芸術文化を発信します



第4回 枕崎国際芸術賞展

The 4th International Art Exhibition in WAKURAZAKI

開催

7月21日(月・祝) ▶ 9月15日(月・祝)

■主催/枕崎市・枕崎市教育委員会 ■協力団体/枕崎国際芸術賞展支援協会・枕崎市文化協会

応募総数834点から大賞作品が決定

優秀賞作品
和泉(神奈川県)



「共存 IX」



「共存 I」
(2作品セットで優秀賞)

準大賞作品
末次健二(福岡県)



「子供たちのためにうさぎの着ぐるみを着る父親のパベット」

優秀賞作品
逆瀬川瑠珈(鹿児島県)



「私たちは加害者にならないければ生きていけない」

大賞作品

小山恭史(東京都)



「無明-鹿児島-」

審査会

「若手・新時代の作品に期待」

7月21日から9月15日まで南湊館で開催される第4回「枕崎国際芸術賞展」。展覧会に先立ち、入賞・入選を決める第2次審査会最終審査が、5月27日、南湊館で行われました。4名の審査員による審査の結果、小山恭史さん(東京都)の平面作品「無明-鹿児島-」が大賞を受賞しました。今回は、応募総数834点(平面650点、立体184点)の作品が出品され、4月15日に行われた第1次審査(WEB審査)の結果、95点(平面68点、立体27点)が第2次審査へ進みました。

第2次審査会は実際の作品を審査員が一つ一つ審査し、その結果81点(平面57点、立体24点)が入賞・入選を果たしました。

審査会終了後の記者会見で、審査員で東京藝術大学名誉教授の保科豊巳さんは「大賞、準大賞の二つは、4人の審査員の満票で優秀であると認められました。そのほかの優秀賞、U22賞、U18賞それぞれがとて素晴らしい作品で、以前より新しい性質の作品、新しい美術の表現が生まれてきたなど感じる作品が多く見られました。U22賞、U18賞の作品についても、新鮮な作品が非常に多く見られて、我々もそのような作品を選んで、次の時代の若者が育ってほしいと感じる今回の公募展でした。毎回、独創的な公募展で、そういった人たちが大いに参加してくるようになった感じで、枕崎国際芸術賞展は、他との違いがすごく鮮明になってきたと感じます。今後に期待したいです」と話しました。

※U22：19歳以上22歳以下
U18：18歳以下

審査員 講評 一抜粋一

審査を終えて

上原 利丸 氏
(うへはら・としまる)

染色アーティスト・東京藝術大学名誉教授(鹿児島市出身)

平面、立体ともに充実した作品が多く、特にU22、U18はレベルが高く優秀賞の受賞もありました。さらに表現が多岐にわたっていて審査基準・入落の判断の難しさをあらためて感じさせられました。第4回展は、類型のない新しい取り組みの作品が多く選ばれる審査結果になりました。

枕崎国際芸術賞展

高島 依子 氏
(たかばたけ・よりこ)

画家・東京藝術大学准教授

この度、第4回枕崎国際芸術賞展の審査員として初めて参加し、作品を一つ一つ拝見させていただきました。年齢、性別、国籍、職種などが異なる658名の作品群は、素材、メディア、技法、コンセプトが多種多様で、表現の幅の広さが印象的でした。日本本土最南端の枕崎の地に集まったこれら多くの作品から、作り手の背景を想像させてくれる豊かな作品に出会う事ができました。

枕崎国際芸術賞展審査総評

保科 豊巳 氏
(ほしな・とよみ)

画家・東京藝術大学名誉教授

4回を重ねる枕崎国際コンペは年々進化し、新しい芸術表現を追求する芸術家の発掘を目指すと共に、若い世代の芸術家の発掘も目指しています。今回の公募ではU18、U22の若手作家の台頭は技術、表現共に一般に引けを取らない目覚ましいものがありました。また立体作品の新表現も素晴らしく今回の特徴でした。この枕崎国際芸術賞展の意義が高く評価される展覧会になると確信しております。

時代の変革の予兆

河口 洋一郎 氏
(かわぐち・よういちろう)

アーティスト・東京大学名誉教授・霧島アートの森館長(種子島出身)

時代の変革を予兆する幾つもの新たな流れの作品に出会えた。大賞の小山恭史さんの作品「無明-鹿児島-」は、正にAI時代に出るべくして発表された作品、と言う感想をもった。

ご来場の皆さまには、枕崎市に集まった作品の、時代の空気感をまとった新鮮さ、クリエイティブ・パワーをお楽しみ頂けたらと思います。

※講評の全文は、第4回枕崎国際芸術賞展図録に掲載